新千載和歌集 上

特別
へ4
8099
18(1)

^4
8099
18
(1)

<2001-039>

新千載和歌集巻第一

春歌上

春の歌の中に

皇太后宮大夫俊成

春やたつ雪の下草ほのかにも
ねぬまの梅の匂ひ来ぬれば

衣笠前内大臣

うぐひすの谷の古巣の山ぢかみ
ねぬまの梅に春風ぞふく

従二位家隆

春の来ぬ山ぢ遠かれ
ねぬまの梅の匂ひ来ぬれば

源兼昌

春の山ぢ遠かれ
ねぬまの梅の匂ひ来ぬれば

文保三年後宇多院に百首歌たてまつりし時

源親房大臣

いとどやを春さへ近くなりぬれば
ねぬまの梅の匂ひ来ぬれば

前大納言為世

足引の山ぢかすみぬ
ねぬまの梅の匂ひ来ぬれば

元亨三年松のもとに百首歌よみ侍りし

贈従三位為子

春ぞ来ぬ
ねぬまの梅の匂ひ来ぬれば

建保三年内裏詩歌合に野外霞

春の中に

皇太后宮大夫俊成

春ぞ来ぬ
ねぬまの梅の匂ひ来ぬれば

参議雅經

かすみの雲はなのとりの声かをのみうちをきつゝ

文保三年百首の内春の時花をあの所

民部卿為藤

うらやましさ里はかすみの遠近の梢のうすき春の夜の月

国学院入道前内大臣

春の山ゆくへはなの朝ぼらけさこそあるべき雲の

藤原為道朝臣

ちゝ毎に涙のいけるよはらかん勇のたれか堪かたきの浦

文保三年百首の内春の時雨の所

前中納言為相

玉藻うかべやいけるかすみの海のあさかの海の春はの

藤原為道朝臣

雲のなをたゝぬ浦の松さへ春の海の松さへ

恵慶法師

いさりする海人の袖にはなの色の春の雨

弘安元年亀山院百首の内春の所

前中納言公雄

小かはのもとの春の風吹ぬれば春の雨

貞和二年百首歌の内時

入道二品親王尊円

春の海やとの波の花をあらはしたる雲の

藤原朝臣家千首ノ内人倫部ノ時雨ヲ

源俊頼朝臣

ハツセ川ヤマトノ国ノ時雨ハ降ルトシルヤ人ノ袖ヲ

山階入道前太政大臣家十首ノ内月ヲ見テ

前大納言為家

百日マデ降ルカ時雨ハ我ヲ思フ人ノ袖ヲ濡ラスナリ

寛元二年内裏百首ノ内

従二位家隆

ヤマノ端ノ月ノ光ハ時雨ノ雲ノ間ニ

前大納言為家

ヤ我ヲ思フ人ノ袖ヲ濡ラスナリ

嘉元二年百首ノ内

大納言公實

百首ノ内

元亨元年二月後宮十首ノ内

後照念院入道関白太政大臣

長祐ノ世ニツヽテ学問ノ道ヲ絶ヲ

百首ノ内

前関白

建武二年内裏ニ人々ヲ召シテ

ヲ時ノ

ヲ時ノ時春動物ト題ス

前大納言實教

ウグヒスノ初ネ聞ヤハヤ春ヲ深カヲ

寛治二年後院御百首歌奉りける時 前参議

前大納言為氏

あされゝとものをもふくや雪ふる年のくれぬるかなしさ

清慎公七十賀屏風に

大中臣能宣朝臣

花さくあとの山ぢ雪ふる

前大納言公任

雪とのみ

三十首歌中小雪中

花園院御製

宮内卿

うゝしきものなれば袖にあまるかな

後光厳院

若葉

藤倉右大臣

春はまつわかなをつみてをる時はあれはてぬとも見えぬ

障子の繪に雪ふる時

郁芳門院安藝

ゆきはれぬ雪の雄の沢の若菜をつむ

百首歌奉りし時

御製

後光厳院

雪あさ沢雪はのこる神のゆてはるかすゑ

伏見院御製

百首歌の中に澤若菜

百首歌奉りし時

雪あさ沢雪はのこる神のゆてはるかすゑ

百首歌奉りし時花歌

藤原為道朝臣

いはれとも雖ふへめぬる春のなをしきるれはむかり
しらぬ(?)人のまつ(?)
そのまそ庭にはかなかすみへつゝ雖ふる花の
人のまとふかはなけしとはさらく

牡丹大臣

あまさすひさにたゆるひむまきのしらなみいとまにあらの根かえ

元亨三年後宇多院にて十首歌講せられし時

後山本前左大臣

夜霞のあかたなりて春見捨て花侍りけれ春風のまとかへて

桜の歌

前大納言為家

名桜の志けれとも春ちらかひさまれつむ雖に春をせえや

後京極摂政家の六百番歌合に

寂蓮法師

春雨は花散れ雖との色をあはとつまに萩の梅もち

正治二年後鳥羽院に百首歌たてまつりし時

後京極摂政前太政大臣

霞柳の色は庭にうき梅さかえて花の雲へ春をむかふ吹

建治二年三月歌合に

後宇多院御製

夕詠のむつれ雖と花からんむかし春をとゝやまし梅か枝

春の宮中より

皇太后宮大夫俊成

ふるさとの梅花かすみたちわたりて春風にほひ来にけりと

文保三年百首歌奉りける

中宮大夫宗尹

梅の花ふかきにほひあさ日さす

六条内大臣

かすみとともにたちのぼるかな

世尊寺前中書

春風にかすみたちぬとかをるかな

後伏見院御製

飛山にうつる梅花をよそにみて

宿鶯少人を

鶯をさそふ梅の白ゆきにうつるかをりの

月花門院

梅のかをりにたちかへるかな

性助法親王家百首歌

前大納言為氏

春風のうつるにつれて梅ふかすみとともに春のゆくかな

前大納言為家に三首歌侍りける時梅花浪雪と

いふ題をよめる

源惟氏朝臣

咲そめし梅の花ゆゑ春のこころかすみ梅ちる風

伊勝大納家百首合

夕べ人ぬしの

渓みたり春の色ちりの宮は末すゑの梅をきちらしあはれ

題しらず　　凡河内躬恒

梅のえに雪のふれゝは別せさかも花とみえまし春はさりけん

清原元輔

宮こにはあやなき花の梅もさきかすみにほひあはれ

建長六年後嵯峨院にて三首歌講せられける時春梅

太宰権帥為経

袖のうへに花やをれらん風まちてうすきくれなゐ遠くにほふ梅か枝

延応二年三月仙洞歌合に

前大納言為世

うつりぬる花の梅さく人の袖かりにすゝめとそみゆる世

題しらず　　中務卿宗尊親王

梅か香を昔にかへすとかたみせて雨の袖にかすむ月のあとかな

法皇御製

春の夜の梅のにほひを袖にしめて月にかすみて梅の香そする

暗き夜の枝にもりてやかすみつゝ

中務

見ぬ人にたれかわかたん梅か枝をつゐに折りきてやはらかにかたらん

題しらず　　清法印

鶯の宿の花の軒ちかくに吹風そよせてもはなれまさらん

題しらず　　僧正遍昭

花の色は春のいとにかけて青柳のいとにかけつゝみたれてそゆく

青柳の眉にこもれるいとなれは春のくるにそ色まさりける

中納言為輔

春風や柳のかみをけつるらんみとりの眉をみつくろふかな

亀山院御製

百首歌よませ給ひけるに柳

さほ姫のころもほしつかけそむる春の色そむる青柳のいと

入道前太政大臣

芳川の岸根かけて青柳のうらはにかゝる春の白浪

後京極摂政前太政大臣

性助法親王家五十首歌に

前大納言為兼

風わたる岸の柳のかたいとにむすひもとめぬ春のあさ露

嘉元百首歌奉けるに見柳

法印定為

志ら露のむすほゝれつゝなひきてや青柳の糸をとけて春風そ吹

帰鴈をよめる

前中納言定家

契をけむまたくるすに風のはなはみをそれて春のかりかね

文保三年百首歌奉てられける時

津守国冬

春ふりしてうちむかへるかりかねの人をも我かわすれし

堀河院御時百首歌奉けるに帰雁を

権中納言国信

春とはいへども雪おもたれ枝をたわめ
元亨元年二月後宮十首歌奉
花
雨大納言為世
雨のまに雲ぬけてはるかに
鳳返畑峯頂小霞
右大臣
雲ぬけて春の雨ふる夕べ
後西園寺入道前太政大臣
夜深月
あすはまた雲ぬけ雨ふる
拾遺
山田法師

大宮殿
中院入道右大臣
春ふる
前参議雅有
文保百首
二条法親王覚助
雨ふる
津守国助
徳治二年三月仙洞百首

贈従三位為子

花の中に

前大納言為家

おりけりと我なる雲に花の色を
百首の歌にてまつりしとき

同日左大臣

春の来るかたを桜咲ぬれば
宣政門院一品宮と申す時宣政門院の
咲くとやそのかをりのみ春の
多の夏の日の春のうつり

前大納言為世

ちるを惜みてうつるの桜

酬八道前大政大臣

前大納言為世

春大臣の歌にて咲のこかすそうの歌の心也

建武二年内裏のくもゐ花
うまつりし時花

前大納言為定

雲かゝる花の色の春の
百首の歌にてまつりしとき

右大臣

高砂の桜の木末に咲花や松の上にも白雲とみゆらん

康平三年三月八日家に花色映月といふ事を講

京極前関白太政大臣

月影のさえゆくまに桜花ちることもみえぬなりけり

待ちかねる人にみせはや

題しらず

柿本人丸

吉野なる三笠の山の月影にあさけの桜の色をみすらん

山邊赤人

足引の山さくら花日をへてかくしちらは我恋めやも

寛和三年三月三日御前の桜花咲たるをめて給ひ

御遊ありて歌よませ給ひけるとてよませ給ひける

めてたくみえさせ給ひし花山院

天暦御製

咲花のかくれなき花あらはちりてのちとそいはまし

題しらず

平兼盛

さくらみねの雲とみえつる花をかへてさくらひとさく山桜かな

寛元百首奉りし時花

正三位隆教

白雲のたなひきわたるとみえつるは

をかの山のさくらなりけり

左近中将義詮

みよしのゝ春の桜咲しより雲にへたてぬ峰の白雲

百首歌奉りし時

等持院贈左大臣

ちとせ元の初瀬の桜咲しよりあらたにぞ花はしら雲
正中二年七月廿七日亀山殿にてことに花をさくらせて百
首歌たてまつりける時初花といふ事をよませ
給ひける　後醍醐院御製
とし〳〵て木のめも春とみしかども花まつほどのゆきのみ山
前大納言為世よませ侍りける春日社三十首歌中に
民部卿為藤
三吉野は花より秋の名にたてゝや川こえの雲
山花を　法印長舜
花との春はさかりとみるの山本桜あり花の雲もと
建仁元年二月後鳥羽院五十首歌合に
寂蓮法師
咲ぬれば雲と霞とたつ山の花ふるとかゝる[illegible]
前大納言経房家歌合に
二条院讃岐
風わたる花のあたりに来てみれば雲も雨なる[illegible]山
藤原範永朝臣世に[illegible]
白河院御製
春といへばまつはかすむ山桜みるべき[illegible]
雲林院[illegible]白川の[illegible]
しられけり
よみ人しらず

さ夜ふくるまて木すゑの花かけに独そなかむる春の白雲

題しらす　　前大僧正道玄

花は色そことにみゆるき人をまちてみむ桜もあかぬ弥生の

文保百番歌合に　　西園寺入道前太政大臣

吉野川岸の白波をまちてこそ花の盛をはるかにそ見る山桜かな

貞和二年百首歌たてまつりし時　　前大納言為定

桜花のちるはいくへのあらしにもさくら花さへ見し人の

法印慶雲

新千載和歌集巻第二

春歌下

花園院位におはしましし時朝覲行幸の次に
花見せさせおはしましてよませ給ひける

伏見院御製

春ことに花の桜のかはらねはまたしらぬ世のかさねそみつる

建保二年二月内宮百首歌めしてさせ給ひて敬花と云
事をよませ給ひける

順徳院御製

ことしきや花をもみちの色々をみとめてすゑの木すゑに春そ咲

伏見院位におはしましける時花見に御幸ありける時も庭の花をも

いつとなくはかなき春のつゆにあそふ

従二位為子

九重に匂ひかさなれる桜花いく世の色にみちたらん(?)

山花といふ事をよませ給ける

後伏見院御製(?)

さか(?)ぬ山雲井にみゆる滝の糸もてはやす花のみなかみ(?)

花を(?)し侍(?)

後宇多院御製

あらし山さそふ吉野やなかれ(?)く桜すかたの滝の白波

延慶二年三月仙洞歌合に

正三位隆教　教定子

咲花の色に桜の横雲みえてたちそふ波のしらくも(?)

法印覚源日吉社にて七首歌合し侍ける時

相坂(?)の楢の葉にはかられて我山のさくら色をかくす(?)

春歌中に

後照念院関白太政大臣

咲匂ふをそへて雨(?)にもたらす花のにほひの雲

嘉元百首歌に花

弾正尹邦省親王

吉野の山のさかりは世にみちて雲と花とをいつれともわかす(?)

建武二年内裏にて千首歌講(?)しに

ちるとも(?)かゝる時なしとや

二品法親王覚助

霞みわたる尾上の山桜かひ(?)てそめる花のさかり(?)

後醍醐院いまだ春宮とおはしましける時の事なり

権大納言為明

新勅撰に入たる山桜を花の比尋ねて見侍りける歌の詞書

前大納言為兼卿

春の雲と見るまで山桜たちそめしより百重なりけり

後醍醐院御製

木のもとに成りぬるとてわが宿をとへとやいはん散ぬべきかな

後三条入道太政大臣

百敷のみぎりに桜ちりかかりしを見てこの事問へと

宰相中将に仰せられ侍りける時

民部卿為藤

桜ゆへいとゆゆしき金殿玉堂の内にて

南殿の桜咲ける時

殿上にさぶらふ人中小臣つきなりて一枝を

折せられ侍りしかばめでたき事ありける

後醍醐院御製

かぎりあるはるの春にあたるかな

前内大臣

後京極院

たちそめし桜の花にいてそ井の春をかぎりとおもふ人

前大納言經房家歌合

藤原成家

さらでだに雲井の花を折りかへし春にまがへる春の雪かな

源頼政

なげの春の月大臣

建武二年内裏百首歌

前権僧正雲雅

前大納言公任

平貞文

長治二年四月中宮歌合より

権中納言國信

大炊御門右大臣

侍従為親

[illegible]

和元百首のあされるなかに世をいとふ

後宇多院御製

[illegible]

建長六年三百首の会

後嵯峨院御製

[illegible]

前大納言俊光

[illegible]

花園院御製

[illegible]

建仁二年三月和歌所にて恋の

寄月

後二位家隆

[illegible]

後二位成實

[illegible]

前大納言為兼

[illegible]

文保百首の時

法皇定為

[illegible]

前中納言雅孝

咲そむる花のたよりは契りきとまつさへつらき峯の山風

百首歌奉りし時 花ノ

前関白

行てさそ我はとふらさ嵐山花の木のもといくかなりなん

為道朝臣

花の一つ宿を

根はやかて川ちる花の木すゑにそやかて景色なりけれ

花易散といふ事を

如法三宝院入道前内大臣

散らでよき花やあれぬ春風の吹まで千ゝの山のはかな

依花待人といふ事を

殷富門院大輔

いつくにか花のたよりに人をまて地主はおもひもひいり

権大納言延光の許より花見にまかりて侍り

小室にてよみける

藤原義孝

桜花ちるか見まくにいつかなりゆかりの春をたのむ身そ

返し

権大納言延光

この春も花をはよそに見つるかな花のゆかりなきそやかなしき

寛治二年百首歌奉りけるに落花

冷泉前太政大臣

あかなくにまたこのくれをたちかへりにしのめともなつかしき山桜かな

太政前太政大臣家哥合に桜

前参議教長

[illegible]

前大納言為世

[illegible]

法印長舜

[illegible]

光明峯寺入道前摂政左大臣

[illegible]

清寿院尼助女

[illegible]

法印宗性

[illegible]

中宮大夫公宗

[illegible]

為道朝臣

[illegible]

前大納言雅孝

[illegible]

落花狂路といふ事をよめる

[illegible]

後法成寺左大臣

[illegible]

京極殿御忌日に書写し奉る法華経

一首 [illegible]

あきは雪とふりにしをみせてとゞめおかりける峰
の寺　　　　よみ人しらず

木のまゝにもの霞にかゝれみよし野の山やあらしん
春雨ふる日に花のちりまさるとみよ
めつ　　　　中納言兼輔

庭川は木のもとちるをなごりをばさそふ花をあらし吹や
正治二年百首歌奉りける時
　　　　宜秋門院丹後
とふ人も積もるやかへるらん我ならでさく花の庭には
元久二年詩歌合に水郷春望
　　　　前中納言定家

宮木もりなきされ霞たなびきてむかしを志賀の花ざかり
千五百番歌合に
　　　　皇太后宮大夫俊成女
故郷と成わかゝるさそ春のむかしの志賀の花ぞの
題しらず
　　　　伏見院御製
志賀の浦やよせくる浪を白妙の花吹おろすひらの嵐
嘉元百首歌たてまつりける時花
　　　　六条内大臣
志賀の浦やよせて返す浪まよりさきちる花のさ浪
題しらず
　　　　よみ人しらず
春風にかすみながれてらし難波江の入日もあかき波
　　　　正三位知家

[illegible]

十五番歌合

西園寺入道前太政大臣

春風と滝の白糸とをよりかけて誰か織りかける白雪

和元百首寄せる花

桂中納言公雄

こまとめて花の陰かけてなりたちぬ滝の白糸

滝邊花

源基氏朝臣

滝つせに春のそこたたえ雪のうかぶ浪

庭の橘ちりぬ[illegible]

前大僧正親源

ちりぬれば[illegible]

すまのうらに[illegible]

瑞子内親王

[illegible]

[illegible]

瑞子内親王

[illegible]

[illegible]

瑞子内親王

元亨三年八月十五夜歌合の時

民部卿為藤

[illegible]

[illegible]

入道二品親王法守

春霞たゝひとへたにかすめともなを月影のうすくみゆらん

前大納言為定

うこきなきちよのみやゐの光まてくもらぬ春の雲井の月

六百番歌合に　前中納言定家

木のはにもとは日数へてまちつれと光のこるあさけの春の月

題しらす　後二条院御製

春霧たちへたつる山のかけにてもかすめる月の影そのとけき

元亨三年八月十五夜題をさくりて百首歌よませ給ける時　前大納言為世

小山田のかりほのいほにもる月のかけのみよにとまるらん

性助法親王に五十首歌よませ給ける時　津守国助

世をてらす鷲の高嶺の月影を雲井はるかにたのむ夜は

題しらす　津守国道

色みえぬなにはの浦の山風の月のかけさやけきにほふ

百首歌奉りし時　前内大臣

水底にうつるも見えて山吹の花のしたゆく波もなかるゝ

嘉元二年百首歌奉りける時　後照念院関白太政大臣

岩根ゆく水の流にかけみえて花さく岸の山吹

白三百番歌合　　右大臣正義法

三月十九日有歌合　　後鳥羽院

建保元年三月三百首詠せられ侍時法上人

所望により出詠

法皇御製

とはばやな河の柳をひきて池の水浪

遊覧時花香会放生会

藤原教行朝臣

放生会の網打ちすてし雲たなびき春の暮

毛詩

春の野の放ちなりけり人の網の打ちてかなん

人々たすく

遠賀川院

ひとしれぬ春の心を思ひきや人の手馴れ

文保百首の内三月

法三位宣子

はるの色の春の霞にすぎぬるとやいはん

百首歌めされ侍けれども春の内

沛製

散ぬれば花の跡ふきしをれて春はなほ

大納言殿実母

ちる花をまつ人なれば白雪さへふりそへてとゝめ春

貞和二年百首歌の内

前大納言為定

根かの角りかすとゝ[illegible]

天徳三年内裏歌合

中納言朝忠

[illegible]

正治二年百首歌たてまつりし時

皇太后宮大夫俊成

いつ[illegible]

あはれとなみた

新千載和歌集巻第三

夏歌

百首歌たてまつりし時

花園院御製

[illegible]

文保百首歌たてまつりし

六条内大臣

[illegible]

百首歌たてまつりし時更衣

前大納言雅顕

[illegible]

文保百首の中にてまつの花

前大納言為定

春ゆくとなにをかなかむうかれ衣ただいたづらなれぬるかぎり

夏の中に

従二位宣子

なほ捨てしうきもの名ばかりをかりそめ衣ぬぎかへてけり

院御製

時鳥なくこゑにしるしられぬるかたらひ人のなほ待つ月

五月一日部屋なきけるをもよみ侍りける

後醍醐院御製

五のつ花をうゑうとて花のさかりもあへぬ部屋なるか

松の色をよみ侍りける

後京極院

時あやめの月にうつる時雨をもなほ雨とぬれ衣なるらん

部屋の郭公

仁和三年法親王守覚

郭公ねをやそへてうつすらん三十首の中に里時雨といふ事をよみ侍りける

法皇御製

いとゞやとまをもれぬ部屋の郭公ねをかたらひてなく

文保百首の中にて時

後光明院摂政兼良大臣

玉川のうとしかきつばたの郭公ねをとゝのへて浪のうへをもよみ侍りける

文保百首の中にまつ時郭公

今出川前右大臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中務卿宗尊親王

[illegible]

[illegible]

前中納言雅孝

[illegible]

[illegible]

前中納言定家

[illegible]

[illegible]

[illegible]

源邦長朝臣

藤原為遠朝臣

後二条院御製

[illegible]

権僧正源守

[illegible]

前大納言為家

[illegible]

後鳥羽院御製

[illegible]

中宮大夫宗

[illegible]

権中納言為明

[illegible]

結縁法師

[illegible]

惟明親王

[illegible]

[illegible]

中納言家持

[illegible]

[illegible]

文保百首詠進時

後照念院関白太政大臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

元威法師

後嵯峨院いまだみこなりし

百首詠のうちに初恋

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

時雨の御法の会きく会をすまつ者なるべし

従二位

入道二品親王性助

みな人の思ひよるべき時雨の時ぬぐふ袖なるべし

正治二年百首会の時

前大納言隆房

袖ぬれぬとてあはれ一しほ思ひ知る

人は時雨るといふ事をなるべし

平春時朝臣

かりそめの袖のなさけの袖ぬれぬ

中務卿宗尊親王家百首会の時

四三位重氏

きぬぎぬの袖わかつけて時雨るこれぞ秋とは思ひ知る

元亨三年九月盡日内裏中百首会の時

法わうこいんの御製

前部ぬし

さらぬ人ぬれぬ袖なる木枯の月ぬれぬなるべし

前大納言実教

夏ぬぎの月ぬれぬなるべし

花園院御製

きり出る雲は月に時雨て村むらの袖をぬらすなるべし

遠部ぬし

光明峯寺入道前関白左大臣

時雨こそ山の紅葉をぬらすなるべし

前大納言為世卿家合歌部之

祝部成久

たちかへるかすみをなれぬ時なれはかりくらすいとすらん

惟助法親王家五十首歌

おなし歌雅有

いくしほの浦とはしらで部たかの子ねのこえはつるかりん

永徳元年百首歌

六條有房

うつろはぬ花のあるへ時なれはかりくらすふるさとの春

夏歌中に

前大僧正桓守

雲はなれかすみはてぬる山の端に月のかたふくなつの夜

平維貞朝臣

たちそへて雲はなれぬる月なれはなつの夜ふかき秋の風

民部卿為藤

あれはてぬかすみはすくるかはかりの月の光ぬる時

永元百首歌

前大納言為相

百首歌のうち

西行法師

なにはのうらにかすみたなびくなつの夜の月

沙弥

なつの夜の月をあかくいとすきてあけぬるかとの風

永元百首歌

前大納言為世

衣笠前内大臣

夏山中小

部立なきもの也やまとの国人なるべしとぞ

百首歌めされ給ひて

後醍醐院御製

民のゝ為めとのゝしるべとなるべしやまとの国人

文保二年八月常盤井殿洞の紅葉の時人々詠ませ

給ひて歌ばかりにまつりけるふる郡とぞ

後光明照院前関白左大臣

とぞ詠ませ給ひ民の為めとのゝしるべとなるべし

百首歌ばかりにまつりけるとぞ

土御門院御製

水上の早苗の数をかぞへ侍れば

法市定為円

詠ませ給ひ

神代記に見えたる所なり

新撰三位為子

前中納言定家卿の家に住侍る京極家人奇合

仏名の時間の

法市定為

たのしきは世のかぎりなるべしとぞ

神代記に見えたる所なり

正中二年百首歌たてまつる時

権中納言公雄

橋のかけはしとうやの花の新たふらんめかの人なるらん

百首歌たてまつりしとき橋

等持院贈左大臣

神なびやむかしの跡を思へとも我とみそしの新のうちも

神なびの里に住きけるとき時雨

従前大政大臣

建武二年内裏かくしくさをさりて西海へ

まうりくる時橋

入道前内大臣 [illegible]

[illegible]

貞和二年百首歌たてまつりしとき

後三条前内大臣 實泰

[illegible]

[illegible]

後白河院御製

橋は花の宿とふ時多かるを[illegible]

守覚法親王家四十首歌

前中納言定家

[illegible]

平忠盛朝臣

[illegible]

前大納言為兼

[illegible]

[illegible]

[illegible]

なる孤島の未開なりしを成しなして漆のさかえ成

前僧正覚朝

御願なかりしかとも成るかはりて月毎に

月毎に水無瀬殿のあそびの御願にて

桂中納言雅

建武二年四月十日御願にて

桂中納言雅

よりなる月毎

前中納言公

あり元弘のさかひ乱れ

百首歌

月毎に御願にて

右大臣

百首歌

前大僧正道

正治二年百首歌

藤原隆信朝臣

月毎に

百首歌

前大僧正覚

公卿

義雅卿

月毎の

元亨三年八月十五夜月百首歌

前大僧正道

夏月

後宇多院御製

泉川に流されての月新参にてなりおもき次
百首のうたまうり時部立
入道前太政大臣
時雨なるうれ[歌]をたづねにまうでそめしかたいさうの月
新嘉部とりの事を
前大納言為世
うらふるる新しのうて時雨なる紅葉の月の宮ふるるの
紅葉に
津守國助
いとりすう月の光あれてうら風やうたん
後中院前太政大臣
梅ちへ人さうの山の雪にて月のうさ紅葉とうすう
桂中納言俊忠
夏山の庵にうたに夏のすゝ杉のしたくゆうまのめ
うら風うものこゝろ三そ言ふうまうの雲の月
うまさ新宮
伏見院御製
とをもとおもとのかうて夏やすゝうや庵のあるひ
夏山の雲りとに紅葉
大納言那言母
神ふるをもゆう堂やうひをつゆの師の玉とかをん
新光夏言めされうの月井てあるこうと
後宇多院御製
うひうを玉とそみゆう水うさあうの海まう雲と

[illegible]

薄雪門院女房

[illegible]

康永三年六月仙洞ふく三条海住[illegible]

[illegible]

[illegible]

大井川のほとりなる所の名にあはせて所縁和
文保百首に詠まれける時　　前大納言為氏

三川堂の前の月新の心を　　お大納言為世
樹陰暮月といふ題をよみ侍ける

久々の雲はいつの新月ぞ　　伏見院御製
春元年侍従三十首詠ける時夏月
法勝寺殿開白日の大臣
清涼殿の端にて雲まより新月

元亨三年八月十六日新後宮内侍の月千首に
月前松のかをり　　前大納言為世

明やすき夜の月の長入こと葉の月の新しき
百首詠ける時　　二条法親王舞姫

なを雲にかくれぬ月の光をもかりにして
路の月を　　右道行

清水の上すさまじき滝の水かりに成ぬる
後醍醐院御時武者所にて詠ける　　平氏村

まりの時の月を
なる神の音にたとへもかりにもとかりにもの
百首詠ける時　　日野資朝

関白左大臣

文保二年内裏和歌会

従二位行家

人丸

中務

祝部行親

前中納言定房家の和歌会 納涼

従二位

伏見院御製

元亨三年三月三日殿上の月数寄

後宮女院前宮内卿

文保百首 雨

前大納言為定

寛治二年百首歌たてまつりける時六月祓

皇太后宮大夫俊成女

思ひ出すあさの袖にくらべこの夕べ
かふ秋風

新千載和歌集巻第四

秋歌上

延喜御製

題しらず

ながめやる方もなき空の秋の月
雲にのこりて明けぬなるかな

院御製

月の影にあらぬ秋とは思へども
ながめ慣れぬる袖の涙か

法皇御製

ながめ慣れぬ袖の涙か
正和元年八月十五夜中宮の御前にて月前秋風

八月の事とも世所言ふ

後伏見院御製

なれはあきけたりとすゝ松風にいとも秋のたちぬあら

らはへにけり

物すきの秋風吹て蟬の声ばかりなる

石清水社三十首方人初秋露

四三位知家

こゝろあらはあきけの露は神のまもりにあつき秋とこそ

久家卿

新宮社の久しき露はいつの神にかはらぬ

衣笠前内大臣

光員親王家歌合

船恒

こゝろ秋の事ぞとも露の玉とあらはしとられた清川

中納言家持

玉ぬくとたれかはしらぬ

曾禰好忠

建武二年四月に

うきつゝ月の露

璋円親王

露むすぶ下草ゆゑ秋の虫の声

後三位藤子

秋の方中

吹むとは風のやとれる秋の草の

百ヶ日の事 附歌

前大納言為定

[illegible]

後京極摂政前太政大臣

[illegible]

百ヶ日の事 附歌

前内大臣

[illegible]

桂中納言定頼卿

[illegible]

大貳三位

[illegible]

前大納言資名

[illegible]

貞和二年七月七日三条内大臣

[illegible]

法皇御製

[illegible]

後伏見院御製

[illegible]

元徳二年七月七日内裏にて三首詠せ給ふ内

七夕橋という事を

前中納言公猶

[illegible]

七夕祭

清寺国道

天川姫をちぎりかたらの橋をかけん
百夜ゆきかよひし七夕

[illegible]

八道前大納言

元亨元年七月廿六日鞍山殿中くうの月をながめて
[illegible]

[illegible]

七夕

[illegible]

後宮[illegible]

[illegible]

七夕

[illegible]

大納言經信

[illegible]

中納言家持

天河[illegible]

紀友則

[illegible]

元徳二年七月七日七首詩講せらるときもの
[illegible]

花園院御製

[illegible]

七夕

天川[illegible]

[illegible]次　　[illegible]大夫[illegible]

七夕のあさ[illegible]ひ[illegible]ひ[illegible]ふ[illegible]

文保二年七月七日内裏にて詩歌を合れ[illegible]時

七夕地儀とい[illegible]事を

民部卿[illegible]

[illegible]の水上いきとしとあ[illegible]

文永八年七月七日白河殿にて[illegible]

[illegible]井くゝ七夕橋

後鏡院御製

かたらされ[illegible]のねたる夫の[illegible]

七夕の心を

後西園寺入道前太政大臣

[illegible]

正中二年百首歌奉[illegible]時

前大納言[illegible]

[illegible]

後伏見院御製

七夕の天[illegible]

[illegible]

[illegible]

織女のいとをとるとて[illegible]

[illegible]

[illegible]

文保百首詠歌

法下定為

七夕の心を

正安三年七月七首詠歌

後二条院御製

和泉式部

寄月恋

源兼氏朝臣

昭慶門院一条

補任親王

式部卿久明親王

[illegible]の庭を掃きに行く月新さひ源草のいと
貞和百首歌めされし時　前中納言雅孝
清華宮[illegible]の志賀の[illegible]
[illegible]　為道朝臣
[illegible]神やとらの[illegible]源あらふ姫[illegible]
道法法師
[illegible]の[illegible]
法下定為
[illegible]神の源[illegible]
源因法院前関白左大臣

うゑたりしかはの[illegible]
貞和百首歌[illegible]時　前大納言為定
[illegible]
[illegible]百首歌時　二条法親王覚助
[illegible]
永徳年[illegible]の百首合小松の[illegible]
源花山院内大臣
[illegible]
[illegible]　前中納言有忠
[illegible]

百首ゝたまつりし秋夕

当道法親王

時しらぬわが身となふれかりのひかんかなけさこそ物思ふ者

秋の中ふ

桂中納言公雄

あさ嵐ふかぬ夕ぐれ物思ふひとりのこころ

信実朝臣

時雨ふるゝ山の木の葉の色ことに秋深

雅仁つくりて物思ふ者かなしさも折ふ

朱雀院御製

年もとに大空のつゆ殿へ物思ふ秋の月をみるかな

後鳥羽院御製

長月廿九日山家月

物思ふ者ふく山家の月もいとゝ秋

いかりの上に秋深しと物思ふ者あさ嵐

百首ゝたまつりし時萩

桂大納言実俊

寂しさの色ふかしもの思ふ者の萩もち

あれ百首ゝたまつりし秋の夕

賀茂三位為子

物思ふ者ふかしかの思ふ者あり萩すり

元弘二年三后宮人屏風ゝ

前大納言宣教

いとゝひとりみとりん家木ゝ松の一ツ枝の秋ぞ物思

建武二年内裏ゝ百首ゝたまつりし時秋極恋

ふ

[illegible]

弾正尹邦省親王

貞和二年百首歌めされし時

左兵衛督直義

[illegible]

前中納言医房

たちかへりさかりをそなげきそめし[illegible]

廣義門院

元亨三年七月内裏かくしのもとにて三首歌

[illegible]時相草花

[illegible]

[illegible]

[illegible]

建治二年九月十三日関東より諸国に於て所
々の寺を
法華寺入道前大政大臣
是は日の山に始まりて天下に成りたりしに法華経
元亨三年後宇多院の月六十首の中に
民部卿為藤
あしひきの山たちかくれあらのらそにすめる月哉
暦應三年八月十五夜三首の内せんかせられし時
山とはるる雲をとはせ行方
法皇御製
雲はらふ山とはいはるらんすめる月
元亨三年七月四条中納言為冬三首の内
侍従為親
風にはあまつ雲井に雁の月はらはの影をしたん
月十五夜の内せん行方の中に雲間行月と云事
とはるる世行方
伏見院御製
晴てあるしら月雲はらはつる海のもしほ火
中宮大夫左宗
みちまに雲かくれぬ月の桂をとる物は風
前大僧正慈勝
一むらの雲はなれ出るかの新々子里の秋の月

[illegible]

菅原盛親法

[illegible]

平貞時朝臣

[illegible]

前大納言為家卿百首歌けるに

惟宗光吉朝臣

雲ゝ[illegible]

[illegible]

大蔵卿行宗

[illegible]

建長二年八月十五夜歌合

[illegible]

冷泉前大臣

[illegible]

前大納言為氏

[illegible]

花園院御製

[illegible]

前大納言為定

あきの月すみのぼるかとみるまでに
おもひくらしてしかの浦の月

浜宮院御製

秋の空にあまてらす月をあふぎてし
ぬしの
ちかひをたのみてしかな

浜離宮院御製

建武二年八月十五夜
はるかにいにしへ
をしのぶの山をあふぎてはるけき
世にしたふ

権中納言長家

今宵の月をまれなる秋の夜の
あはれをたれかとはんとすらん

夏ぞ
ものすさまじきつれなくて月
ぞ

御製

住吉社に詣でて雲の上に月
弘安六年八月十五夜内裏にて海辺月
を

大蔵卿隆博

雲もなき秋の空にてかりそめに月
をあはれ
おもふ

一条内大臣

いく秋をかぎりとすらん
元亨三年七月内裏にて三首
の歌をよませられける時

初秋月と題す　寛元年　大納言師資

雲はれぬ月をいつ見ん秋の夜の
秋雨の中に

大納言大将実通

あきのけさ雨ふる時の月をこそ
中宮権亮に侍りし時禁中月を思ひやるとて

為道朝臣

いつもしも雲もはらはぬ雲井にて
殿上ゆるされ侍りし時の月の歌

太宰大貳重家

めぐりあふ月の光はかはらじを
つれなき雲の上ぞうらめしき

源基氏朝臣

住吉に社の頃の雲の上の月をみるかな

内大臣

月をみるくらしの

源左近朝臣

業平の雲のうへかけ分る月の影

秋雨中に

京極前関白家肥後

うたがはしの時の雨の月の光をたのみなりけり

寛元二年九月十三夜西園寺入道前太政大臣家

ながめて月十三夜の月を見侍りし

常盤井入道前太政大臣

雲はれぬ秋の月の光をたのみなる雨の月の光

正中二年百首歌たてまつる時

後醍醐院関白太政大臣

あかつきの雲ゝのうへまでにほひなくすめる月かな

百首歌奉時

中納言為明

吹ゝこす秋の夕のあらしにむかへる山の月すめるかな

前中納言定資家の百首歌

前中納言季雄

雲ゝ晴れ初の山の秋風にふけゝる木すゑの月もさやかなれ

永仁元年後宮歌十首歌奉時

前大僧正賢超

月をのみ待てつるかの宮ゝ

津守国助

たゝ夜ゝの雲の絶間の月ばかりあはれそへてゝ秋風ぞふく

前大僧正賢超

月清しうき雲ゝのうへにはにほひそへて

前大僧正賢超

雲晴れぬ夕やたゝかの月のかつら川

飛山法印製

かけ高やくもの上の橋月をへだてゝ中にそへてすみけり

水無瀬法印製

久かたの空の雲ゝたゝさはる月の影にはあらぬ秋風

[illegible]

前参議為實

[illegible]

後久明親王家歌

[illegible]

月前花

[illegible]

[illegible]

お僧正道性

[illegible]

久安百首哥

皇太后宮大夫俊成

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

前大納言為世

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

百三十年時　入道前大政大臣

[illegible]　前大納言[illegible]

[illegible]　後西園寺入道前大政大臣

[illegible]

[illegible]　後伏見院御製

[illegible]

[illegible]　前大納言[illegible]

[illegible]

[illegible]　大江貞重

[illegible]

[illegible]

[illegible]　前大納言公蔭

[illegible]　法皇御製

[illegible]

[illegible]

[illegible]　鷹司法師

[illegible]

[illegible]

[illegible]

山本入道前太政大臣

百首うたのうちに月

左近中将義忠

作詩の海やたかくとも月の新きを紀淑望

前大納言忠房卿

源朝長卿

玉津島社三首うたの

鴻月

玉ぼこやとうの月の新しきを海の秋の橋を

藤守国量

風の橋の姿あれとそとうの月の新しを

法二位行家

あまの浦のうらやはしらの月をうつ

伏見院御製

かすみたちかへりまれ法ての月の橋

今宵月はうらまを行かたの神の月新

西園寺入道前太政大臣

稲葉月にしるのやまに出たるあまの浦

前太政大臣

とをなる中の塩路の秋の月新してとをの海

藤守国道

第はしの海のうらを秋の月

津吉國助

[illegible]

源信明朝臣

[illegible]

人丸

[illegible]

伊勢

[illegible]

和泉式部

海邊月

海島羽流れ製

[illegible]

後醍醐院

[illegible]

[illegible]

[illegible]

新千載和歌集巻第五

秋哥下

[illegible]

[illegible]

後二条院御製

[illegible]

[illegible]

[illegible]

伏見院御製

[illegible]

秋の山の中に

後伏見院御製

[illegible]

貞和二年百首哥時秋の哥

前大納言為藤

わさ田の花ちる所のさびしさにもゆへ庵をつくるとは

後三条太政大臣

[illegible]

寛治二年百首哥時夜庵

後徳大寺左大臣

きりとの神と家けさちよ[illegible]

文保三年百首哥奉[illegible]

前大納言為世

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

天正度立植豪

[illegible]

大江高廣

[illegible]

前大納言為兼

[illegible]

夏三寺時秋田

[illegible]

前大納言為定

[illegible]

文保夏三寺時秋の所

前大納言俊光

[illegible]

建長五年八月仏洞御幸遠近初度とゝ事[illegible]

前大納言為氏

[illegible]

[illegible]

[illegible]

元亨三年立花屏風

二条法親王慈尊

[illegible]

永仁元年八月十五日後宇多院十巻[illegible]

時秋屏

為道朝臣

[illegible]

後醍醐院みこの宮と申す時又前宮合と名初度

お中納言隆長

[illegible]

後京雅殿

[illegible]

山階入道前左大臣家平宮と申す暁房と申す

[illegible]

三条入道内大臣

[illegible]

大江宗秀

[illegible]

永福門院

[illegible]

貞和二年百首歌の時

[illegible]

[illegible]

前大納言為世卿の中に遊出

法印隆尚

[illegible]

[illegible]

前兵部大輔

[illegible]

中務卿宗尊親王

[illegible]

出雲路とい為うの事

伏見院御製

[illegible]

後西園寺入道前太政大臣

[illegible]

進子内親王

[illegible]

後三位殿民

[illegible]

曉月同出とい為うの事

前大納言為世

出[illegible]為[illegible]の屋[illegible]

[illegible]元年後宮歌合の時月

四三位隆教

[illegible]の長月の[illegible]

元亨二年八月十五夜の月[illegible]

民部卿為藤

[illegible]

文永二年九月十三夜仙洞[illegible]合の時月

山階入道前左大臣

久世乃わたりてる月の桂川 桂のもとなる色ぞ清く
　　和元内裏百首 前大納言
さ霧の月を浪さに新たなる海の色こそ清き
　　後興善院内大臣
雨後月といふ事を
　　皇太后宮大夫俊成
吹たゝぬ山の端を照らす雨の後こそ月の
　　参議雅経
夏百首 会
かたぶくもたゝぬ嶺の雲ぞ残れる雨の月
　　前中納言雅
元亨三年九月盡日 内裏百首 暁月
　　前中納言季雄

乗とまつ法華の家に かけ書て乗をとなりあり所
家に入て 三年の九月
　　後京極摂政前太政大臣
長月の立の月 月のこと
　　弾正尹邦省親王家百首 月
　　権僧正
特 乗をたなびきもこひく 乗
　　和元内裏百首 月
　　前中納言
新院人丸のひとりを 行
　　昭慶門院一条
前中納言為相 為

浦波よりたちくる里はあまのいろはとまりの衣うつ
海邊擣衣

平秋時

藤原宗泰

ちからなし神の御代をけさいかさてあまや衣うつ
なるらん

為道朝臣

海風の秋をのたらすさ月なりあたまきの海人
西山の若いかりわさうつ

蓮生法師

月新の秋を秋をに成ぬ波のうつ音のあらそ
弘安元年百首歌の時

桜宗仲資卓

さしもうつ衣をかさねて七月八月の秋ことうたるも
擣衣

法下法弁

あかつきは清水の月に衣うつ
山ひの秋を秋の家ぬ

橘俊良卓

第八元年内裏百首合に関擣衣といふ事を

後久我太政大臣

かすかの衣をうつ秋の夜の月
和元百首歌

擣衣

万秋門院

法印定懐

治暦元年九月家ふく曉間搆衣といふ事を講

土御門右大臣 師房公

元亨元年九月内裏ふく人々堂をさうして方違

民部少輔藤

百寿寺

前兩日

弘安元年九月晝日春宮ふく三首方違せられ

前大納言民

元亨元年九月晝日内裏ふく三首方違せられ

前大納言宗教

百寿寺

源二条院の御

月の宮門院百首歌のうちなる時鳥

[illegible]

前中納言定資 家

松の緑川波の上雪こそあれ春の川浪

[illegible]

祝部成賢

かつらの谷のさし枝の花の雪[illegible]

永仁元年八月十五夜百首歌海辺月

[illegible]

大蔵卿隆博

折しも岩に寄る月の海や秋なる浪の姿の海辺

夏ごろ[illegible]

[illegible]

入道親王尊円

[illegible]

中務卿貞平親王

庭のもみぢ[illegible]

人丸

[illegible]

康保三年内裏歌合時[illegible]

[illegible]

[illegible]

うゑたりかひなきあるに長月のたりさけの白菊乃花

河原院にて合し歌に菊を宿菊といふ事を

かさしにおりきかきてたる菊の花ゆゑ乃露乃庭

弘安七年九月廿日龍山院にて雜菊歌苑といふ事

とかせられけるに作り侍りける時也 行乃

後宇多院御製

我宿乃さ菊の雜と色ゝ乃露乃ゆゑ

秋乃哀雜乃宿乃白菊乃花乃ゆゑ

文保三年夏之頃歌合けり時

前中納言宗任

乃ちりかゝるとてそまた南殿のめしけり菊のさかり

長月やとゝ事をとりあつめて色ゝ乃花乃ゆゑ

とも世行乃ちに

後宇多院御製

乃ゆゑ雲井乃秋はさそ昔乃ちりつもる菊乃ちりつき

寛元元年九月内裏にて重陽宴乃日

寄雜井入道前大政大臣

ちりてゝ乃ち菊乃ゆゑ乃ちりつもる神乃宮とゝ乃

弘安七年九月廿日龍山院にて雜菊歌苑といふ

事をかせられけるに作り侍りける時也

伏見院御製

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

武蔵門院御願

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

法下幸法

[illegible]

二月法親王寛尊

[illegible]

[illegible]

[illegible]

建武二年八月廿日詠百首和歌中に秋植物を

秋萩

後醍醐院御製

百首歌めされし時紅葉

御製

秋の色をしらぬ顔なる萩の葉の

枝の末まで紅葉ぬるかな

桂大納言忠季

秋の夕露のおもたき萩の葉に

風吹ぬれば千首ぬるる

後宇多院御製

秋の野のあさぢが原の萩の葉に

露のおもたき秋の夕かな

建武（保カ）二年内裏歌合

大蔵卿有家

大井川にて桂の里の秋の月

文保百首歌たてまつりし時

三条入道前太政大臣

紅葉の色に浪の音をしるべかな

百首歌の中に松間紅葉と題する事を

前大納言為氏

三笠山松の下枝の木間より

みとりとぞ思ふ秋の紅葉

建長二年仙洞詩歌合に山中秋興

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

前中納言為相

寛元二年九月の比紅葉を折りて用ゐ侍りける

従義門院

為二条院御製

中院入道左大臣家の歌合に紅葉を

神祇伯顕仲

西園寺入道前太政大臣

源清蔭朝臣

寛元元年十月入内屏風に紅葉ある所

従二位家隆

亀山院御製

寛元元年十月入内屏風に紅葉ある所

中納言入道前太政大臣

[illegible]

三十首 [illegible]

伏見院御製

[illegible]

秋の樣 [illegible]

[illegible]

[illegible]

元亨

[illegible]

[illegible]

[illegible]

左近中將義淳

[illegible]

[illegible]

平政村朝臣

[illegible]

貞和二年夏三首 [illegible]

正二位隆教

[illegible]

九月盡乃至とてよめる

大炊御門有家

[illegible]

[illegible]

新千載和歌集巻第六

冬哥

正中二年七月廿七日内裏にて人々まかりて百首哥たてまつりけるとき初冬のこと

前大納言為世

[illegible]

順徳院御製

[illegible]

[illegible]

土御門内大臣

[illegible]

寛和二年殿上哥合

[illegible]

[illegible]

[illegible]

建保二年内裏三尺の時の

前中納言定家

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

源清氏朝臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

永兼三年内裏三合御歌

中納言右家

寛治六年十月廿三日内裏にて月を見て

紅葉見ればうき世の人ぞ思ひ出でぬ

内侍四侍

兼保三年十月大井河の道遥につくりて侍

大納言経信

伊勢の海の沖の白波立ちぬ

藤原春実

[illegible]

[illegible]

[illegible]

河風の時とのりたまはせられてきこえられたる事
はせの寺のもとすきさしたる本尊所〻に海風
坂東基任
りうちう本尊なりやうのあんはしてこまうの用の事
絵巻法師
紀伊大納言良教
紀伊国をはしめとしてゆるしたまふなりとかたそなさるる
坂東極院
霜恒法師
霜恒法師といふ事
武蔵国久目郷
貞和二年百ヶ寺あされ時
道二郎親王ゆ園
霜
賀茂社之
嘉ちり庭儀茂生風
源兼氏朝臣
あさかふだちあとうてもかきさてあ事のうち武蔵の小美人恩
建保六年六月庚申武蔵国ゆ
如願法師
茅ヶ木ゆ

百首歌たてまつる時寒草

[illegible]の吉野の秋かぜ人わすれ[illegible]

従大納言實俊

元弘三年三月屏風に寒草あるを

[illegible]

二品法親王慈道

等持院殿左大臣家百首藤原

惟宗光之朝臣

[illegible]

[illegible]

大江廣房

[illegible]

性助法親王家百首中に

従大納言為兼

[illegible]

[illegible]

[illegible]

後二条院御製

[illegible]

後宇多院御製

[illegible]

元亨元年龍山殿にて山家寒草といへる事を

[illegible]

民部卿為藤

[illegible]

佛法の菊花をかざらしてよませ給ける

冷泉院御製

秋ごとに菊花をかざすかはらけの底にぞ千代のかげはうつれる

寛治二年百首歌の内時雨

藤原信實朝臣

しぐれのみとりたえぬ菊花のそのかをしたづねて池の

建仁二年和歌所にて紅葉の色を

屏風に

紅葉をば庭のうへにぞ見せまし人の心の秋の色

皇太后宮大夫俊成女

紅葉の中に

後鳥羽院御製

なつかしき木葉の色の秋の日の

津守國助

[illegible]

[illegible]

前大僧正道昭

[illegible]

後二条院御製

[illegible]

貞和二年百首歌の内月

[illegible]

入道前太政大臣

月ゆゑ[illegible]

後鳥羽院御製

[illegible]

貞和二年百首歌の内時

前大納言為定

[illegible]

藤原惟通卿

雲居なる月の光のあけもはて日のいでさすかぶとの山

元弘三年三月廿五日

文人のこと葉あらはす日ぐれ

[illegible]

彈正尹親王

中宮大夫公宗

[illegible]

二条法親王義尚

天の戸あけぬとなるらん春の初の[illegible]

[illegible]

白河院御製

[illegible]

文保百首の内

三条入道前太政大臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

源宗氏

[illegible]

前大僧正道意

[illegible]

あつめて代の始元浦の海の
和泉浦の父浪のとり立て
和泉和わく輝のとり
きこゆるけわ子むらさ友千島
元亨三年十二月廿三日浪宮多院十首会
世々の時御子島
友のとり、きかりてもれ
法印雲弥

御製
我君をかしこ和泉浦のを
前大僧正賢俊
とりいそしてあくまで晴ぬり
和泉和わく輝のとり
和泉の国の屋
宜秋門院丹後
世々の時御子島
桂中納言公雄
法印雲弥

塩風に船を寄せて海士里のたつ色とはかるふ
浪こさめ浦のひろ方ふかしたれ
文保百首
大江貞重
きれのとり宮小
和元百首
志賀親王
塩風に浪たく船のたつ
文保百首
三位隆教
世々浦のとり漁の入塩
文保百首
坂東貞重朝臣

[illegible]

海部千島をとらる

前中納言雅孝

後恵法師

[illegible]月新さし郡後さ沖の方をたかみとの時の

建保内裏百番歌合

僧正行意

[illegible]

浦千島といふ所に寄せ

賀茂三位為子

[illegible]

文保百首歌奉けるに

民部卿為藤

[illegible]

常陸賀茂大宮家の[illegible]

時千島を

権中納言為明

[illegible]

百首歌[illegible]

前大納言為定

大宮の[illegible]

[illegible]

前中納言為右

[illegible]

正中二年百首歌めされける侍

後醍醐院御製

[illegible]

為道朝臣

[illegible]

信実法師

[illegible]

百首歌たてまつりしとき

[illegible]

内大臣 通顕公

[illegible]

元弘二年立后宴の屏風の料紙にかける

前大僧正覚円

[illegible]

百首歌の時

権寮使實継

[illegible]

[illegible]

恋歌中

[illegible]

[illegible]

恋歌中

[illegible]

[illegible]

前大僧正源惠

伊勢のあまたひろきみちをみてうん極手のさいあ旅ゐを

さゆう月風をあしあ者をためきあへめをのそ世を者の系

文保貳年十月十日　　明法夏

時かゐ風をひとりのぼりつまくかたをたゐ楽ゐ

和元百三十年十月　　三條入道前大政大臣

小篠原ゆきしおの楽を　　脇　慶門院一条

紅葉ゐ　　伏見院御製

年のあけさしひさかたの雪ゐ世ゐ

藤原雅朝卿

長祐の家月風をゐ

元弘三年三月十三日　　前大納言為世

人々百首ゐ

人々百首ゐ　　後二条院御製

海邊雪

櫻ゐ

永福門院

百首ゐ

花園院御製

月映雲といふ事を

[illegible]

前参議為嗣

[illegible]

後花山院内大臣

[illegible]

百首歌奉りし時

御製

[illegible]

禁庭雲といふ事を

後醍醐院御製

[illegible]

後鳥羽院御製

[illegible]

権僧正慈傳

[illegible]

権僧正道我

[illegible]

坂上是則

雲間に源義行の[illegible]

前参議経清

源義行

飛山殿千首歌に雪

前大納言實教

堀河院中宮上総

桂大納言忠季

正中百首歌に雪

二条法親王覚助

元亨三年八月内裏わくらのとき

桜宴使左衛

前大納言俊定

法下定為

みとりの花をすきて鳥の声のうぐいすのかく山

菅原重總

矢田部の清茅を雪と雪ぬきて雪ぬきてあらしの嵐こそ落雲

百首歌たてまつる時雪　等持院贈左大臣

ひかりあさき月雲ゆくらの矢田部をけぶりかくしてもる白雪

文保百首歌たてまつる時

雪あらうつりてもつもる富の丘なかきたえ雪

中宮大夫宗冬

貞和百首歌めされし時

たち雲はれぬ雪の暮の時雨ふりまさる神のさしけさ

桜雲使資時

文保二年八月十五夜井伊谷幼帝の時人々に月をながめて

雲つつみたりけりうぐいす鶯待ちあり

前左兵衛督教定

百首歌たてまつる時

はだの尾上の雲のきえゆくみてうつるやまとうん

雪

橘大納言忠季

すぎぬ雲ぬ花ふきつりの雲はれ雲はれ雲はれ

入道前太政大臣

たち雲の松のさえ絶の雪ぬ雪にかりてかりてかりて

忠房親王

かりてかりてかりて雲のうらかぜにかりてかりて

文保百首奉けるとき

律寺國冬

[illegible]

[illegible]

元弘三年三后宮大原野へ詣し給ふ時

前中納言[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

前大僧正範憲

文保百首の題をけるとき　春の浪を[illegible]

後照念院関白太政大臣

[illegible]

[illegible]

従二位家隆

[illegible]

みち野の雪

新千載和歌集巻第七

離別歌

命婦乳母[illegible]

上東門院

[illegible]

加賀乳母紀伊国[illegible]

園融院御製

[illegible]

朱雀院御時[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中納言

夏ごろ京にまかりかよはしける頃ほとゝぎす

宗盛院御製

たきの浪たちわたるとそなれにしを

なかめもあかぬ夕ぐれの空

九条右大臣

さけのみにたれかをしまぬ春ならん

さくらをしたる人のこゝろを

ちりぬとも春をしるべき花なれや

ちるをもとゝのふ人のこゝろを

伏見院御製

ひとりいる山の奥ぞあはれなる

陸奥にまかりける時大納言公任卿に詩をかきてつかはすとて

つゆをなを都のうちにとゝめてや

藤原實方朝臣

おもひたつ都のうちも出はてぬ

笹ふく風の音ばかりして

すゝかぬ雨のたまりにたまりさんとく

出はてぬとこゝろをあけんとかのしたかの詩へ

こたへいやそ内にきあとなれはひく

前大納言公任

思ひ出ぬ月のつゝみにさゝれ雲の

長月のこゝろ千代國にあらんと餞すとて

法成寺入道前関白太政大臣

法三位為経 遠

紀宗基朝臣

藤原宗遠

大江資朝臣

紀行

大江頼重朝臣

紀宗法師

いきうとかのひかりをしるべにまちかねて
信濃国あるかたとうかれ法師のもとにて
ちりてきこえかねるこゑ

菊原雅頭

ふるさとのうつさはまつのこゑにまちかねて
信濃国にてうかれけるこゑ

三善資連

なにはづのきしの中山とゆきもはてぬ花のとをさせ
あづまのうかれこゑ

祝心法師

しるべかねうかれのなかるせにうかれのなかるあさん

あつまへのうかれて法とてかけうか
信濃へ志ゝ法

ゆくへとかりかけつるのうかれをかりかけ
神や志ゝ

神や志ゝ

新千載和歌集巻第八

羇旅哥

貫之

[illegible]

文永八年七月七日白河殿おほくの[illegible]
[illegible]

後深院御製

[illegible]

海路

後伏見院御製

[illegible]

[illegible]

一条院御製

月はなほかたぶきもせぬ[illegible]

成尋法師

入唐の時よめる

[illegible]

源[illegible]

[illegible]

正治二年百首歌

隆信朝臣

[illegible]

夏三月十四日

前大僧正賢俊

うき世をすてて家の風をとどめて浪の花をもてあそぶ月をかこつて
竹生島といふ所に住侍りしの法師の庵を出て津の
国に日吉社参詣のついでに
おもひつづけ侍る
ちはやふる神のこころを和歌の浦波
なびくしるしを見せ給へ

法印定宗

摂津国新王家浦神社
住吉社参詣のついでに
詠歌すると聞侍りしかば
ちはやふる神のこころを和歌の浦波
なびくしるしを見せ給へ

津守国量

法印宗昭

浪の花をもてあそぶ浪のまくらかな
浦の法師

前大納言為氏

羈中海といふ所にて
橋為氏

橋のなさ枯いろ〳〵むすぶ塩干のうきね道ゆきまくるなく
都元亨三年十月

駿河三位為子

いとゞあはれさそふやうきね道
為子

僧正覚信

行ことをうけてかけまくもかしこき
東海の宮たちの御ゆめにあらはれ給
ひけるを時宗あやしみ給ひ白川の
こ堂を法師ヶ岳にうつされて
光臺院殿の御ゆめにあらはれ給ひ白川の宮
後醍醐院御武者所ひらの左兵衛督
ふじとなのりて御ゆめ

如雄法師

禮室上人

源知行

いとうの御かすがの山の端にあらはれ給ひ
建仁元年六十首の時野槿月

前中納言定家

めぐりあひて見しやそれとも分ぬまに雲がくれにし夜の月かな

後三條為理

前右衛門督の御ゆめにあらはれ給ひ

藤原雅家

家の詩哥合の時野槿少秋と云事を

前中納言定資

[illegible]

道命法師

世にあるものとのみ思ひしかど桜ばかりは[illegible]

[illegible]の関白左大臣の桜花を[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月見てなほ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

貞和百首にて[illegible]

前大納言為定

[illegible]

[illegible]

[illegible]

述懷の哥の中に

藤原基任

ちりはてゝ二とゝまらぬ櫻花ありあけの月にあはせてぞみる

源兼昌

秋の野に露ぞ玉ぬく蓋かな神のたてたる鳥居なりけり

荻原兼宗

いにしへ聖人の書をとゝのへ給ふ所

蓮生法師

石ばしるあさの河原のしらなみの濱にうちよせたる

正治二年百首歌の樣

惟明親王

第四番 山の寺の月を見て

土御門院御製

ゆかしき所をたづねきかばやとおもふ神の御

お系御定家

誰ゆゑ所をとゝのへまうしけん山々あらしの音のみ

秋のゆふ行末の所二村山をゆるぎなくなる

荻原幸朝

あらし山ゆふかぜ吹かたゆる二もゝ山ぶき春の時かの

あれまつ所の所をうゝ山ふかくなる

法眼幸海

越のあらたかに山の所にて雲の上の春のうゝ色

大業時行人時ゟ人行け

二位法親王覚助

箸かゝ那ゝと雲と雲とゝの法性寺の山乃ゝ月

摂津国助

あゝら山ゝ山ゝ山ゝ山ゝ山ゝ山ゝ山ゝ山ゝ山ゝ山ゝ君

大江義重

雲ゝと雲と甲斐の方ゝ雲ゝと雲ゝと雲ゝと

あ〜恨たる雪をかこちて袖をしぼる

弘長元年百首歌たてまつりける時おの

大納言為家

おもひ出る春の夕の月をこそ

さらの外の雲はれ

新千載和歌集巻第九

釋教歌

天王寺にまうでて二諦の法文をかくとて百首歌たてまつりける

中ノ

前大僧正慈鎮

ことふくにいのちをやとる春の花

天王寺の雲とそなれる

六道三のさかひ四つの八苦元なき眠のさめぬ夢さ

都元百首歌たてまつりける時

入道二品親王法守

六の花さくさくひらけ八苦元

澄覚法親王

ひとすけめとそ思ふ夢さ

[illegible]元百首[illegible]けう時[illegible]

後西園寺入道前太政大臣

[illegible]

後伏見院御製

[illegible]

[illegible]

久安百首[illegible]けう時大教

藤原清輔朝臣

[illegible]

一切衆生悉有佛性

源有長朝臣

法花經[illegible]

前大僧正[illegible]

[illegible]

菩提心即是自淨信心義也

権僧正道我

[illegible]

藥王品廣宣流布[illegible]

法下[illegible]

[illegible]

前大納言為家卿忌て法眼源兼法生源式の公卿
てら千世仏きう三の中しい花開者天下皆春と云事を
前大納言為世
咲そむる法のそこの色とこそ宮方の本来の春とみてられ
禅林春朝花色自憐歌会
賜法三位為子
あし吹春の林の初りけ花つまれを世いたられ川
釋尊一代の説教と諸の雑乃結集所詮事を
拾遺 僧都寛曜
拾て寄の拾てうえんとや法ちとも賀をろひと沢ん
国学ちあく仏事の意て花のちう成ん
前参議雅有
大国法智ん
ふるさと花のけんうまを法ん水れ浪をて移を
千貫ものうまを所きうに鏡像を
法宗多院御製
寺法院ん新を新をたきに有とみうこそ西とをうられ
有為都仏長中拾果とい為うをと成
前大僧正植守
寺法院みうをてう法う新、拾ん拾のいうの為をてあう
宿命通の形乃ん仏を

いま我ら世々にうまれてしつくんを法といひ一向専念
後二条院かきさせ給ける小結の法華経をたてまつりて七日之間真言法を行て世々生々
一生のあいだ
右大僧正祐助
あつまの人々の為にまことの法をすすめ給ける
西花門院
ひとすじに弥陀仏
ひとすじに弥陀仏をたのみ給ける
右大僧正忠源
天教院中将
年々月々かさねて義をとり給ける
右大僧正頼仲

河内国ふるき眼の義をたてられて西土にうまれ給ける
法花受懐
さあり御てい眼の七祖の義をたてられ給ける
西園寺内大臣女
河内国ふるき眼三宗を西土にうまれ給ける
昌義法師
西土にうまれ給ける義をあらためて
信解品をたてられ
菊亭宗秀
ふるき西土にうまれ給ける
天教院
恵禅上人

悔くまのとれわれを信ぜんとおもうべし
うたのもとたるべきなり
はせをに学ぶべしといふ

伏見流の製

唯識論のいとうこと作りの
いかりのたりとしひろやうせ
就通計不執唯虚妄法都無所用のこと
我ものを我ものとおもふこと
尋思路施名言諸道断唯真空者自内証の
境

特保正歌道

いかりていはまくしたのたとへかもうつあれ
ばなし

只敬法し

言葉ことばのさとりそのことはなりに
ものを体と

八道三不教主法寺

ありかれ二のたとへをもはしすることなりん

貞和二年百三十四のさんこと

一かうでいそ〳〵さとりあるとりと
還帰本理二合三千のこと

等持院殿左大臣

[illegible]

法印澄俊

前大僧正慈法

[illegible]

権僧正植覚

延喜十八年八月八講於[illegible]仏法僧宝

[illegible]

貞信公

仁王経奉持不智如蚤雲遍満於法界のこと

法印定考

大宮小さとの[illegible]

在諸仏常与大師俱生と云事を

蓮生法師

[illegible]

空仮中三諦を

法印寛實

[illegible]

寿量品の霊鷲説顕本のこと

法印朝円

[illegible]

千歳の[illegible]

後宇多院御製

あらはしてこれをみるふねくてとれいとまき
元亨二年八月十五夜月中之事に
二条法親王覚助
さとのあるひのはるかなるはるすみてんとうのあるの月
止観法義乃ほうもんくはうり
前大納言為家
鷲の山のあるの月をたのむるの年毎に法乃ゆくきの江
法印成蓮
いく秋をたのの月ちりはらんかの雲乃山の雲ゆ別れく
法務寛信ゆくへ
藤原基俊

月新のかをのかるゆくへ
宗月天教とゆるの事を
法印宗教
いくあるの月のすみのくるのやまにはいるあるん
三鴻於本地の名号をはめてをくるの
方丈記
左兵衛督直義
ふくきりのくれのふかくとあるの月をのをの
雖法三信為本四弘為体
うとひのをてはるの義をのかをのをもの
いをくるの義の修ふるをはるに二巻をの
民部卿為教

法華経の内容を出でて有かすむ月をみるつき

前大僧正道玄

むら雲を去はらひたる山の月すまの海に

金剛経を新写し侍りしを

源和氏

たれかうかべ捨てみるやの月ならんん

藤原基世朝臣

ながめをもしたれ月をもあかしかな

松風を寂寞の友とし朗詠を論習の縁とも

侍りけり

高弁上人

月すむ小倉の峯の解脱の門に松風そよぐ

法華経の内容にあつ〳〵きこゝろみけせい

慶政上人

あきの雲にひかりをもしむ月の新宮をもれ来る松風

観心会に法華経を

前大僧正京伊

那智山の行願寺に詠んさせたまひしを

俊子内親王

いとゝしきこゝろをなぐさめ侍りそむく法の花の岩屋

止観不二摂智眞一のこゝろを

授法師良忠

山をこえ海をへだてゝ来る風のうつるかたの新月

天教を
法もれ聞くことかたかりしのちふみの新たなるこそ
元亨三年八月十五日　前大僧正慈慶
為かくそなけき胸の中月の新たなるこそ
前大僧正慈慶
伯耆の国にあらためふるく大日堂の再興を
所々中に布字和
なべて世の為にかりの三尺の
観像のうつしを　八道二尼観王号同
耀宣上人

法華堂のむかしのうつしを
観元百年に当たる時
一部の三のかけはりとふなのまのかたちをんん
其有得聞彼仏名号歓喜踊躍乃至一念書写
為得大利即是具足無上功徳といふを
一部の三のかけはりとふなのまのかたちをんん
前大納言為氏
無量寿仏の三十八願国土見仏のこと
為氏卿
源為氏朝臣
為氏卿の雲井の部

[illegible]

如室上人

[illegible]

六条入道前太政大臣

寄月入教と云ふる事を

[illegible]

入道二品親王性助

[illegible]

法師

[illegible]

源宣

[illegible]

各尚半座衆花葉待我開浮同行人と云事を

漸空上人

[illegible]

上善人俱會一處と云ふ心をもちて

法下定房

[illegible]

如来浄花所正覚花化生の心を

法眼行海

[illegible]

家のまへを法師とも[illegible]

いたづらのそしりをもかへりみず
かしこまりおそれつゝ
なをたのみたてまつるやまとのほうぶくし

和泉式部

ぎをんにゆく
ぎをのしたそよぐ風のたちぬるを
なをたのみたてまつるやまとのほうぶくし

激安門院

世ふかくゆきちるみの海はなれ
稀林式部と家をうつしてうつる海の河長
毎年さいたりてあきの宴法華をけうとくとい

ふ

前大納言為家

いけるものちるみの海はなれ
百葉とかをうつしてうつる海の河長
といふ事を

花園院御製

いけるものちるみの海はなれ
百葉とかをうつしてうつる海の河長
といふ事を

法皇雲林

おもひやる雲の波川ちる毎のたなびくやまとつくし

菅原京極

ちぎりきたりのてらにてまのりけかきわかれ
民部の為茂一回の結縁御供奉の時無量義
經十切德ふを

大江廣房

[illegible]

[illegible]

建武二年内裏かくのごとくなりしときに
まうでうの時子島[illegible]に

前大僧正覚園

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まうりの時言詞の方に

道二不報恩者因

いつくしみのこゝろ深き御のりのとゝかあるひとを除き

飛山殿百ヶ条不倫盜戒の事

第大納言為定

ちとせのかをとゝめかとこたいそをわすし心はの花

安樂行不不説他人好惡長短

桂僧正玄因

らゝかとゝかるれ那法とゝ成すむあれ法はさ

普門不著於本人の心

お大納言為世

ゝ後をとゝ法ゝるかゝ為ゝ人をかゝふゝとあと思ふ

世八不の方ゝ為ゝ法師功德品

八葉院高倉

法の玉やなかゝたゝあつゝ河ゝ人ゝのゝ為ゝ

一流の奥自ゝ為ゝ事ゝ成ゝ

第大僧正慈勝

いゝ花ゝゝさゝひとゝゝ

大僧正忠性

ゝ世ゝの人ゝ和ゝ之ゝ

お大僧正道玄

ゝ人ゝ為ゝ

権大僧都[illegible]

[illegible]

僧正實壽

[illegible]

法眼[illegible]源

[illegible]

[illegible]

[illegible]

権僧正良[illegible]

[illegible]

建武三年[illegible]

[illegible]

二[illegible]道

[illegible]

[illegible]

[illegible]

五百羅漢のこと

法中成道

後の成道のうたをきいて法性をあらはす玉のうち

建武二年四月六日　さとりて西方に帰る

まつの宮の附述懐

八道二月新五号園

今しと思ふこの世のうちに　来てあらく世をいのるかな

舞真法師

あつまの宮のうちに玉のいたるかたちをあらん

六条院宣旨

竹の葉かけ　夜の霜　鹿の声　ものすごい

雲のうちに　月のかげ　いとすさまじ

天台座主桓豪

世間上人

世間もとの人の家のうちに　人やみをとはず

法一位家隆卿　林院

四条宮　宿住絶信の

西園寺八道前大政大臣

十界の内の九界の中に　餓鬼界を

弥陀の久遠の新主

西園寺の八十八代　鎌倉の時に　海の中に

号道法親王に法つぎたてまつりける時よめる

法印栄運

窓ちかき法の山べのひとえだに竹のたてたる春とは
清水にてかの山ちかくに住侍大納言のもとにまかりあひたる
とぶらひ侍りしに花まつりく方法の第一なきつけく
侍りける

紫式部

ふかき春をかくこそ灯の花にとりてあふぐ御さ
仏

伊勢大輔

いにしへの奈良の都の八重桜けふ九重にかをはなつ
万年三寶滅此徳任百年といふ事を

覚宣上人

たらたねの数ならん数の法をこそ法乃ゆ
二条法親王寛尊

かけをは法花きてあるにあらねとかたるなり
中務卿宗尊親王

法をとは明あときけとこそ成ぬ
暁の夏

新千載和歌集巻第十

神祇

熊山殿七百年忌に

後宇多院御製

酒をかけ民のかまどの煙まで酒とりそすん世とこの春

建春門院おもひ社きいつ世所きつかもしは止歌

の中に後伏見

きてやうの年所の松を宮ゐそ新たなるめ

くふ百年をすめされ今ぞ神祇

後二條院御製

ちてやうの神のとこそ思ひ新たなる時をいはまを長代と

順徳院御製

とりかさね日数のかつ〳〵ふり色ふる代をそうつる神のはあと

後京極摂政家百首

荷中納言定家

神代より変ありてや山井をすれる衣恋なるらん

名所祇園社百首

伏見院御製

天の戸代あまもむすとそ行きて神代をうつを朝ての色

文保百首

法皇定為

玉鬼のひもとき時の葦牙や神の七代のてめなるらん

百首歌めされける時

後醍醐院御製

あさぼらけ月かたぶくかねの音に夢さめてなほ有明の空

神祇歌の中に

二条前関白太政大臣

てる月をあまの川とやながめまし雲ゐにかゝる天の橋立

建武二年内裏千首歌に冬雜物とゝ題をかりて

藤原盛法

あきの京霜夜の月の袖にうつりぬとなげきあかすと思へば

中務卿親

ふるしぬきすゑ結ばれけるかたをいそぎ月出る

都のかりくもりなくらめ

我ぬし神路の山を出でゝ月の新たに

神祇歌に

慈木田氏忠

いく秋をとりしらべて神ぬしの月あきらかに

慈木田氏之

和元百首歌けるに祝

後二位為子

神路山内宮の宮ぬしの月氏をけく高くこそ

貞和元年豊受太神宮遷宮ありしの時神宝沛

紫宋ぬと検知て杉のひつけ行空

小槻匡遠

高氏ぬ宮ぬ小車ぬ神の宮なりぬ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

小弁少弐とい尾ら事とあり

前中納言隆長

あすとて雲とけいらん神紙ら〻ゆ雲をいまもたけさ

左兵衛督直義朝臣

ら〻ふ神紙と

源頼氏

ゆやゝ神のちひらいとうとしとけり分いの氏

源兼氏朝臣

うきゝ神たちむ神のちひらひそ方ゝとりの方ゝ

明長卿

うたのし神ら者ゝいそ方ゝ小ゝとゝ（ゝきゝ通）

なけく事ら者ゝ義ゝきゝてゝ

我ゝのむ方ゝ神たけそ方ゝそゝと方ゝ方ゝ

松の神ゝ丸ゝ方ゝ方ゝ乃中に

前大納言為定

海ゝ方ゝ方ゝのゝそゝわゝ

ゝ

前右近大将家教

賀茂教久

年ゝ丸ゝ松ゝ松の枝ゝ神ゝのかけゝ方ゝゆく

源三位信久

一すゝゝゝのゝ方ゝ方ゝ方ゝ紙ゝ方ゝ方ゝ

雲ゝ海ゝ方ゝ朝ゝ鬼ゝ山ゝ賀ゝ茂ゝ方ゝ中ゝ事ゝ方ゝ方ゝ前ゝ大

細言為世ゝ方ゝ中ゝ将ゝ方ゝ方ゝ方ゝ方ゝ（松の枝

つけてかをとりうつす　従三位氏久

年をへてかつらのはなのはるかぜにかをるかつらのはなかをるかな

こころをきこしめしてて

亀山院御製

春をへいのちもちの花ぞかをるかつらのはなかをるかな

貞和元年十月御時参内事始へ同行まつ

て言ふ時君八月ばかりうつりたまへいらるる

ちとせをへてもかをるかつらのはなかをるかな　従

時参の舞人へ衣冠のめしたる君

けるけるる

坂原雅孝

長つ[illegible]の川波のうつりゆきの[illegible]

文保百首三月ばかりうつりゆきの時

暁の星ひかりをかのうつりゆきの[illegible]

貞和二年百首三月ばかりうつりゆきの時

大政大臣

道前大政大臣

百首せしとき春のこころを

海辺の霞の時へ春のうつりゆきの

[illegible]

[illegible]

従三位氏久

[illegible]

三条入道前大政大臣

面影もとまれる三笠の山のもとにたのむ心つけて祝ぬる

法性寺入道前関白太政大臣

神のます三笠の山の月新たにかけて千代の影ぞうつれる

前大納言為世卿

[illegible]

中院右大臣

延徳比一年京極殿息前参議為[illegible]宮

やまとの国につかさどりてしらしめる

[illegible]

[illegible]

後宮多院宰相典侍春日社参合歌

[illegible]

元弘三年三月廿日

後醍醐院御製

[illegible]

等持院殿

[illegible]

内侍[illegible]時春[illegible]

花園院兵部卿

神まつりに参りあはせ世をさまる野原
百首の歌をよみ侍りし元慶の年

前関白

さゝぬ先にかはらぬものは人の心なりけり

春日大明神に参詣せし時に奉納神楽
たちまちに来りてのりうつりたまひて本国をまも
りたまへとのたまひ侍りしかはいとあはれ
なりしかはこの歌をよみ侍りしかはいとあはれ
なりしかはこの歌をよみ侍りしかはいとあはれ
なりしかはこの歌をよみ侍りしかはいとあはれ

中務卿

詠歌

述懐百首中に

前大僧正良信

さゝぬとて後の世までもたのむらんあまりの罪は
宥給述懐といふ百首の歌

前参議為長

一切衆生の本覚の本来本来なりあるを信
寿元百首の歌けり時暁

津守国冬

神祇

神祇歌

元亨三年後宇多院のつけられ侍りしに
元亨三年後宇多院のつけられ侍りしに

津守国夏

とこたちを祈る神代のあれいまと神とこたへ
弘安八年住吉社奉納百首歌

[illegible]

前大納言為兼

貞和二年夏ごろめされて

〈道二百番歌合〉

[illegible]

神祇の道ひろめ遷宮あひつぎ

津守國平

[illegible]

前大納言為世

小神祇と

権中納言為明

[illegible]

藤原長秀

[illegible]

津守國夏

[illegible]

法印頼瑜

[illegible]

[illegible]

説教成業

[illegible]

前信正義勝

[illegible]

二尼法親王慈道

法印定為

前大僧正慈順

権僧正慈傳

[illegible]

源和氏

祝部國長

[illegible]

前大僧正道玄

[illegible]

後伯うの

春ぞ来ぬ吉野の山の桜花

雲かと見るまで咲かまがふ

雅経卿中し

源清氏朝臣

かりて世をしのぶの山の桜花

ちるを惜しむ人ぞ知る

貞和二年百首歌のうち

菊持院贈左大臣

人なりとわが身なれども石清水

きよきなかれを汲みてしるかな

赤染衛門